

明石真三展

～ごあいさつ～

私たちの郷土熊谷を代表し、全国的にも著名な画家に森田恒友がいます。恒友は、「近代洋画の父」ともいわれるポール・セザンヌを日本に紹介した画家としても有名ですが、セザンヌに大きな影響を受けつつ、～洋～油彩画の手法で、～和～日本の風景を描くことに向き合った画家として、数々の素晴らしい作品を世に送り出しています。この恒友に大きな影響を受けた郷土の画家に、明石真三が挙げられます。

明石は熊谷市の医者の子に生まれ、親戚にあたる恒友に影響を受けて画家を志します。熊谷中学校（現在の熊谷高校）卒業後は東京美術学校（現在の東京藝術大学）西洋画科に入学し、大正10年に大学を卒業後、恒友や小杉放菴らが創立した「春陽会」の、第1回春陽会展から作品を連続して出品します。その間、昭和7年に渡欧、ドイツ・フランス・イタリア等で美術を学び、昭和10年に帰国、この間の成果として第17回春

陽会展には渡欧作を発表しています。

そして昭和33年には、日本のフォービズムの巨匠である堀田清治らとともに「新槐樹社」を創立、第31回展まで作品を発表し続け、第23回展に出品した「睡蓮の池」は文部大臣賞を受賞、昭和60年には栄誉賞も受賞するなどし、活躍しました。フォービズムは、画家の感覚的な色彩を重視し、デッサンや構図にとらわれずに、目に映る色彩ではなく、心が感じる色彩を重視します。明石の作品は、確かなデッサンや構図に裏打ちされながらもその色彩感覚は鮮やかで、自身の作風を追求した姿勢が、それぞれの作品からうかがうことができます。

今回展では、郷土の画家・明石真三をご紹介しますと共に、絵画を描くということ、それに向き合う作家の感覚についても感じていただければ幸いです。



睡蓮の池 第23回新槐樹社展 文部大臣賞



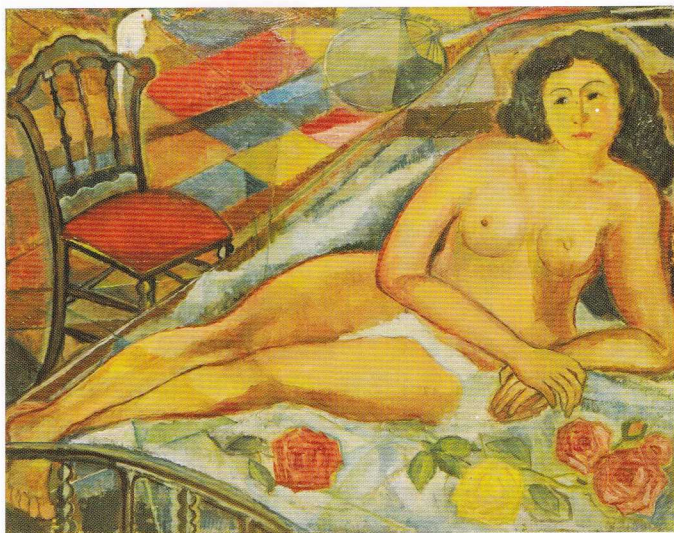
テラスの女

会期：平成26年6月10日（火）～9月7日（日）

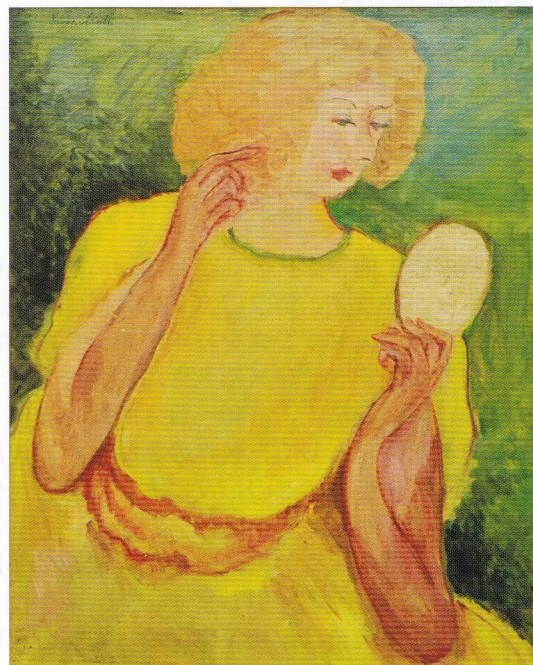
〔休館日：毎週月曜日（祝日は除く）、7/4、7/22、8/1、9/5〕

会場：熊谷市立熊谷図書館 3階 郷土資料展示室

時間：午前9時～午後5時



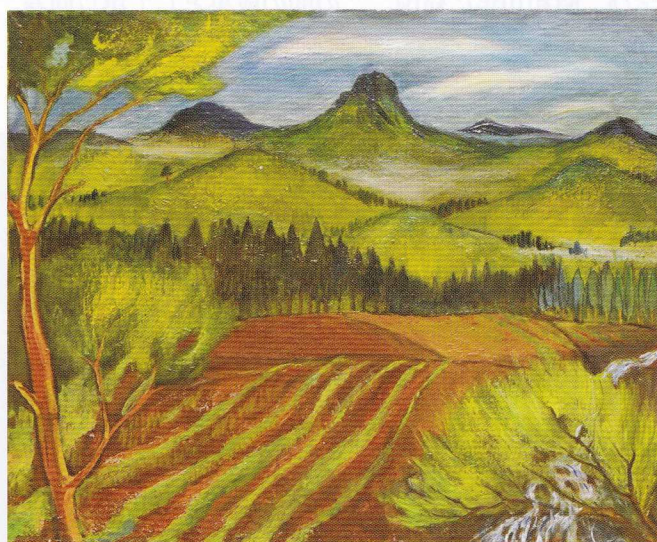
ヌード



化粧 (フェルナン)



群像



早春



筆塚



教会のある風景